

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 3 日現在

機関番号：13103

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24531063

研究課題名(和文)日仏の新構想大学における職業養成教育の形成過程に関する比較社会学研究

研究課題名(英文)A comparative sociology of policy making processes about the professionalization in higher education by creating new universities in France and Japan

研究代表者

大前 敦巳(OMAE, Atsumi)

上越教育大学・学校教育研究科(研究院)・教授

研究者番号：50262481

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日仏ともに高等教育の職業専門化が進行する中、その端緒となる1960-70年代の新構想大学創設にさかのぼって、約40年にわたる職業養成教育の形成過程を比較することを目的とした。研究成果は次の3点に集約できる。両国とも経済発展、教育拡大、人的資本、生涯教育等の社会的要請を受けて、新大学が創設され職業専門化を先導した。日本で1960年代に「中教審路線」と呼ばれた政策集団において、欧米の新大学をモデルとする新構想大学の計画が考案された。戦後の国際的な「計画planning」との関係から、日仏で高等教育計画と新大学創設が企図された様相を比較した。

研究成果の概要(英文)：This study has attempted to compare the processes of professionalization in higher education by creating new universities in France and Japan during the 1960s-70s. Our three main results were discussed in an international colloquium and in the final study report. (1) New universities were created in answer to demands for economic development, educational growth, human capital, lifelong education etc., and they have led the professionalization both in France and Japan. (2) In Japan, the policy group called "Line of the Central Council for Education" had elaborated a plan of creating a new university in the 1960s by catching up the models of western countries. (3) The idea of "planning" in an international context in the post-war period had affected the policy making of higher education planning and new university creation in the two countries.

研究分野：教育社会学

キーワード：教育学 教育社会学 高等教育 日仏比較 新構想大学 職業専門化 文化資本 政策形成

1. 研究開始当初の背景

人文主義の長い伝統をもつフランスの大学も、近年は日本と同様に社会経済的要請を受けた市場化推進の改革が加速している。教育課程面では、欧州高等教育圏建設に向けた再編とともに、多様な学生を受け入れ、既成ディシプリンの教育に加えて、職業移行を円滑化するために職業専門化（仏語：professionnalisation）の推進が図られている。しかし、その傾向は最近に始まったことではなく、少なくとも1960-70年代に日仏両国で新構想大学が創設された時期までさかのぼって、職業養成教育が進展してきた変容過程を分析する必要があると考えた。

フランスでは1968年フォール改革を経て、大学関係者の「参加」、自治管理面の「自律性」、教育研究における「ディシプリン（学問分野）複合性」からなるプラグマティックな3原則の下で、新構想「実験大学」として、パリ第8大学（ヴァンセンヌ・サンドニ校）、第9大学（ドーフヌ校）が創設された。さらにパリ郊外にある第10大学（ナンテール校）から第13大学（北部校）にいたる大学群も、新構想の理念に沿って設立されたと考えることができる。

日本においても、近年の高等教育が経験した構造変革の基本部分は、1970年前後の時期に重要な政策課題として提起されていた。1971年の中央教育審議会四六答申において、学校教育全般にわたる総合的施策が構想される中で、個人の能力・特性に応じた多様なコース選択を想定し、多様な資質をもつ学生のさまざまな要求に即応する高等教育機関を目指して、総合領域型、専門体系型、目的専修型といった一層の大学「種別化」を提言した。そして、1973年の筑波大学創設に始まる新構想大学をモデルとして、新しい教育課程を試行するために、設置基準の運用を弾力化することが記された。

2. 研究の目的

上記の背景から本研究は、日仏両国で1960-70年代に創設された新構想大学を対象に、旧来のディシプリンとは異なる職業養成教育が、今日まで約40年にわたり形成されてきた過程を時系列的に分析し、職業専門化の変容を比較することを目的とした。

具体的には、経済発展、教育拡大、人的資本、生涯教育等の社会的要請を受けて発展した職業養成教育が、既成のディシプリンに基づく大学教育をいかに変容させ、文化的再生産に基づく教育と社会の階層構造を流動化させる契機を作り出したかが問題となり、次の2つの課題を設定した。(1)高度職業人養成とディシプリンの関係をどのように再構築したか。(2)多様化した学生の教育機会拡大にどの程度貢献したか。

3. 研究の方法

本研究の期間は、平成24年度から26年度

までの3年間とし、以下の年次計画を立てた。

平成24年度は、日仏の新構想大学（日本：筑波大学、新教育大学等、フランス：パリ第8～13大学等）に関する編年史編纂資料、調査統計資料、カリキュラム関係資料等を収集し、電子文書化したデータベースを作成することにより、職業養成教育課程の制度的な形成過程について分析する。フランスの機関に対しては、電子メール等を用いた資料の問い合わせを行う。

平成25年度は、日仏の新構想大学における内部資料を中心に既存統計・資料等の補完的収集を行うとともに、特に職業養成教育と既成ディシプリンの関係、および入学者の社会的特性、学生生活状況、卒業者の進路状況等に関する比較分析を行う。また、日仏双方の主に文科系分野において新構想大学創設からの経緯を知る者を対象に、第一次聞き取り調査を実施する。

平成26年度は、日仏の新構想大学における個別大学データの分析を進め、第二次聞き取り調査を実施して追加情報の補完を行う。フランスではパリ第8～13大学のほか、1984年創設のルアーブル大学と2007年創設のニーム大学も対象に加え、1960年代から近年にかけての新構想大学における教育刷新の展開について比較検討を行い、最終報告書を作成する。

4. 研究成果

平成24年度は、フランスの文科系大学部に着目した伝統的大学と新構想大学の関係を、特に職業専門化の進展に焦点を当てて分析し、学会発表と論文執筆を行った。また、1968年以降における日仏の新構想大学に関する既存文献や編年史等の資料を収集し、今日の大学改革に連なる教育刷新の展開について比較分析し、学会発表等を行った。その結果、フランスにおいては、1968年フォール改革に伴って「実験大学」として設立されたパリ第8・9大学が、ディシプリン複合性と学際性に基づく再編の先導的役割を担い、社会人学生や外国人学生に門戸を開き、職業専門化の先駆けとなる課程を新設し、教育方法も伝統的教授法とは異なる修学支援を取り入れていったことがわかった。また、政治的なイデオロギー対立や、郊外キャンパスの都市開発と結びつくなど、様々な社会的要求に対して全方位的に開かれた性格をもつ変革が企てられた一方で、一枚岩になりえない対立や矛盾をはらんでいることが明らかになった。パリ第8大学の事例については、C.スリエによる主要図書の見解を執筆した。日本の新構想大学に関しては、1963年と1971年の中央教育審議会答申の背後にある政府の高等教育政策に着目し、1973年筑波大学開学にいたる政策形成過程を分析した。その結果、当初すでに戦後新制大学の画一性を批判する形で、教育の多様化と制度の弾力化を図る基本構想が形作られており、今

日進展する新自由主義改革との連続性が大きいことを明らかにした。これらの日仏の変化を比較するための理論的基礎作業として、P.ブルデューのテキストを再検討し、文化的再生産をもたらす社会的関係性や態度性向の分析が、高等教育の自律性を低下させる文化変動を理解する上で重要であることを指摘し、論文を執筆した。

平成 25 年度は、日仏の 1960 年代以降における新構想大学創設の政策形成過程について、文書資料および訪問調査によるデータ収集を行い、それを主に政策立案者の社会的関係性から分析し、学会発表と論文執筆を行った。日本で当時「中教審路線」と呼ばれた筑波大学創設に至る政策集団の中で交わされた議論に着目し、ユネスコや OECD 等の国際機関とつながりをもつ官僚のイニシアティブの下で、カリフォルニア大学等の欧米の新大学モデルのキャッチアップと、国内権益を重視する政財界の支援が結びついて、新構想大学のプランが作られていったことを明らかにし、国内学会発表と 12 月に日仏比較の観点から国際発表を行った。国際発表原稿は出版の予定となり、編集者を通じて原稿のリライトを行った。また、当時の政策形成に関わった大学関係者へのインタビュー調査を実施し、フランスでは 1968 年以降に創設されたパリ第 8～13 大学を中心に、大学関係者への訪問調査を通じて 40～50 周年を迎える学内資料の収集を行うとともに、ルアーブル大学とニーム大学を訪問し、特に職業専門化や学生支援等の教育刷新の展開について聞き取り調査を行った。1960 年代以降の新構想大学における教育刷新に関する論文を執筆し、またフランスで新興学問分野として英米諸国の研究方法の影響を受けて発展した、教育社会学の経験的研究の展開に関するレビュー論文を執筆した。

平成 26 年度は、日仏の新構想大学における個別大学に関する資料収集と分析を行い、特に 1960 年代の新構想大学創設に向けた「計画 planning」に着目した日仏比較を企て、全 160 頁の最終報告書を作成した。ユネスコや OECD 等の国際機関を通じて、日仏ともに経済計画・都市計画・教育計画等が進展する中、日本で欧米の「計画」をキャッチアップしながら洗練化を図っていった様相を明らかにし、学会発表と論文執筆を行った。フランスでも戦後の国家総合計画に基づいて高等教育計画を立案していった過程を分析し、その後 1980 年代のバカロレア取得率 80% 目標に伴って今日に至る職業養成教育を促す大学改善が図られていった特徴と問題点を学会シンポジウムで議論した。以上の結果、本研究で設定した課題に対して、次のことを明らかにすることができた。(1) 日仏ともに経済発展、教育拡大、人的資本、生涯教育等の社会的要請を受けて、新大学が創設

され職業専門化を先導した。(2) 日本で 1960 年代に「中教審路線」と呼ばれた政策集団において、欧米の新大学をモデルとする新構想大学の計画が考案された。(3) 戦後の国際的な「計画」との関係から、日仏で高等教育計画と新大学創設が企図された様相を比較した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 8 件)

大前敦巳, P.ブルデューにおける高等教育の文化変動論—市場化に伴う正統的文化の自律性低下に着目して—, 日仏社会学会年報, 査読有, 第 21 号, 2012 年, 45-65 頁.

大前敦巳, フランスの文科系大学学部における職業専門化の 2 つの展開—1960 年代以降の伝統的大学と新構想大学の関係に着目して—, 上越教育大学研究紀要, 査読無, 第 32 巻, 2013 年, 75-84 頁.

<http://repository.lib.juen.ac.jp/dspace/handle/10513/2106>

大前敦巳, フランス教育社会学における経験的研究の展開, 日仏社会学会年報, 査読有, 第 24 号, 2013 年, 12-37 頁.

大前敦巳, 1960 年代以降のフランスの新構想大学における教育刷新の展開, 上越教育大学研究紀要, 査読無, 第 33 巻, 2014 年, 33-41 頁.

<http://repository.lib.juen.ac.jp/dspace/handle/10513/2315>

大前敦巳, 1960 年代における新構想大学創設に向けた「計画」のキャッチアップ, 上越教育大学研究紀要, 査読無, 第 34 巻, 2015 年, 67-77 頁.

<http://repository.lib.juen.ac.jp/dspace/handle/10513/2782>

大前敦巳, 1960 年代の大学改革における「中教審路線」の社会的位置—新構想大学創設に向けた政策形成に着目して—, 社会学雑誌, 査読無, 第 31 巻, 2015 年, 印刷中.

大前敦巳, 1980 年代以降のバカロレア 80% 目標に伴うフランスの大学改善, 日仏教育学会年報, 査読有, 第 21 号, 2015 年, 印刷中.

大前敦巳, 石黒万里子, 知念渉, 日本の教育と文化的再生産をめぐる経験的研究の展開, 教育社会学研究, 査読有, 第 97 集, 2015 年, 印刷中.

〔学会発表〕(計 10 件)

大前敦巳, フランスの文科系大学学部における職業専門化の 2 つの展開—1960 年代以降

の伝統的大学と新構想大学の関係に着目して、日本高等教育学会第15回大会、2012年6月2日、東京大学。

大前敦巳、フランスの新構想大学—1968年以降における教育刷新の展開—、日本教育社会学会第64回大会、2012年10月28日、同志社大学。

大前敦巳、日本の新構想大学と新自由主義高等教育改革の起源、アレゼール日本国際シンポジウム—日仏高等教育改革の比較研究(その2)—、2013年3月7日、神戸大学。

大前敦巳、フランス教育社会学における経験的実証主義の批判的継承、日仏社会学会研究例会、2013年7月28日、日仏会館。

大前敦巳、1960年代の大学改革における「中教審路線」の社会的位置—新構想大学創設に向けた政策形成に着目して—、日本教育社会学会第65回大会、2013年9月22日、埼玉大学。

大前敦巳、1960年代の新構想大学創設に向けた政策形成の日仏比較、日仏教育学会2013年度大会、2013年11月24日、西九州大学。

Atsumi OMAE, "Les politiques de création de "nouvelles universités" au Japon dans les années 1960 : une comparaison avec le cas français ", Colloque Franco-Japonais ARESER Japon /ARESER France, Paris, École normale supérieure, 13 décembre 2013, フランス。

大前敦巳、1960年代における新構想大学創設に向けた「計画」のキャッチアップ、日本教育社会学会第66回大会、2014年9月13日、愛媛大学・松山大学。

大前敦巳、1980年代以降のバカロレア80%目標に伴うフランスの大学改善、日仏教育学会2014年度大会、2014年11月29日、大阪大学。

大前敦巳、戦後フランスの高等教育計画と新大学創設、日本高等教育学会第18回大会、2015年6月28日(予定)、早稲田大学。

〔図書〕(計2件)

志水宏吉、山田哲也、大前敦巳、園山大祐他、岩波書店、学力格差是正策の国際比較、2015年、総231頁、共著執筆122-147頁。

Christophe CHARLE, Charles SOULIÉ, Atsumi OMAE 他, Édition Syllepse, L'université à l'encan (provisoire), 2015年、印刷中。

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕
ホームページ等
上越教育大学リポジトリ
<http://repository.lib.juen.ac.jp/dspace/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大前 敦巳 (OMAЕ, Atsumi)
上越教育大学・大学院学校教育研究科・教授
研究者番号：50262481